

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病虫害発生予察情報について

平成19年度農作物病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

平成19年度農作物病虫害発生予報第7号

平成19年8月31日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では発生圃場率が3.4%、株当たり寄生虫数が0.004頭であった(平年同時期は6.1%、0.38頭)。8月後半の巡回調査では発生を認めなかった。
- (2) 予察灯への誘殺を8月4半旬及び6半旬に認めた。
- (3) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は15.4%、被害葉率は0.5%で、平年(37.5%、1.0%)並～やや少なめの発生であった。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

II. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査(スダチ)では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が16.8%、果実発病度が0.6)。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 枯れ枝を極力除去する。また、せん定枝は園外に持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場における発生量は、寄生葉率が0%、100葉あたり寄生虫数が0頭(無防除区、8月20日調査)で、平年(11.0%、18頭)と比べ発生が少なかった。

(2) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は11.1%、寄生葉率は0.1%で、平年(58.1%、10.3%)より少なめの発生であった。

(3) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、葉の発病度が3.3で、ほぼ平年(34.5%、2.8)並の発生であった。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 8月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が41.9%、寄生葉率が13.2%)。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は80%、発病葉率は6.6%で、概ね平年(50.2%、8.0%)並の発生であった。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が4.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年並～やや多い(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯への誘殺虫数は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに予察灯への誘殺虫数は平年並～やや少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
8.1	28	177	4	32	96	3	4	0	11	10
8.2	10	340	13	22	79	4	1	2	14	11
8.3	21	1,358	36	13	174	3	6	3	4	10
8.4	8	478	40	21	110	18	70	1	5	12
8.5	8	358	59	12	72	3	8	1	1	7
8.6		217	96	10	69		13	2	3	6

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年	2007年	2006年	2005年	2004年	平 年
8.1	64	113	2	182	94	63	7	8	98	30
8.2	58	235	12	199	90	29	15	11	110	24
8.3	61	612	32	347	178	35	14	12	33	19
8.4	41	444	129	127	133	11	38	3	38	18
8.5	56	571	145	81	143	2	35	23	5	19
8.6		536	284	98	185		21	8	7	14

- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は33.3%、発病葉率は5.4%で、平年(59.2%、10.7%)よりやや少なめの発生であった。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は11.1%、寄生葉率は1.3%、被害果率は0.0%で、平年(33.2%、3.1%、4.1%)よりやや少なめの発生であった。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が8.9%、寄生新梢率が0.5%)。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は33.3%、寄生葉率は5.2%で、ほぼ平年(32.9%、6.1%)並の発生であった。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

(8月31日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生程度は「多」、発生量は平年より多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、50株当たり虫数が11.7頭で平年(54.5%、4.0頭)と比べて生息密度が高かった。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。

(2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

(3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。

(4) ヨトウコンーSによる交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が18.3%、葉の被害度が0.2)。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生程度は「甚」、発生量は平年より多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は62.1で、平年(76.9%、13.5)と比べて発生が著しく多かった。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年よりやや少なめで推移している。

(2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は平年よりやや少なめで推移している。
- (2) 8月24日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

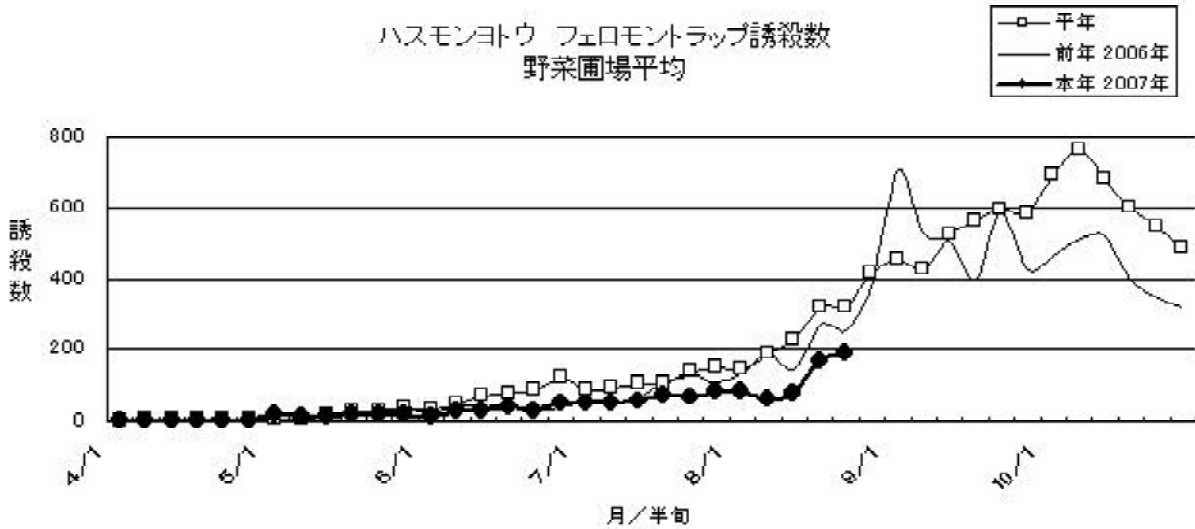
3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

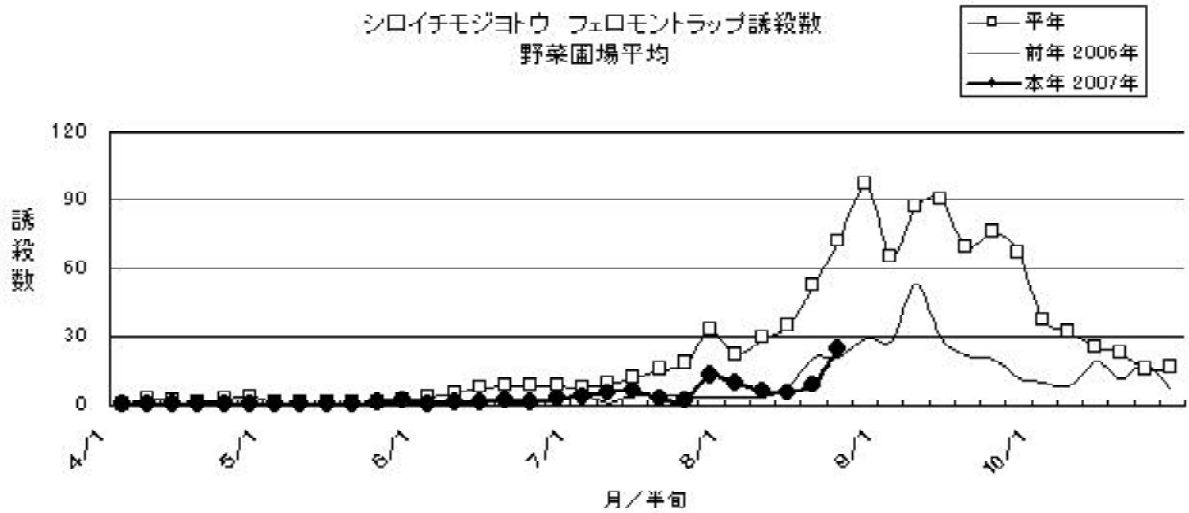
(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2007年	2006年	2005年	2004年	平年	2007年	2006年	2005年	2004年	平年
8.1	79	132	114	126	139	9	4	6	48	21
8.2	62	185	158	56	186	6	4	11	12	29
8.3	74	140	201	123	222	5	8	12	41	34
8.4	162	266	226	214	314	9	20	20	33	52
8.5	183	249	214	252	314	24	20	30	17	71
8.6		373	372	213	412		29	92	150	97



調査圃場：徳島市(川内，不動)，石井町，阿波市(柿原，香美)，吉野川市(鴨島)，東みよし町(三加茂)

シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



調査圃場：徳島市(川内，不動)，石井町，阿波市(柿原，香美)，吉野川市(鴨島)

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報，発生状況，防除法等をお知らせしています。